

以前、このコラムで秋川と多摩川の合流付近の見どころを紹介しました。秋川下流域のアシヤススキの穂は黄金色に広がり、日に日に秋の深まりを感じます。特に朝晩の川沿いを散策すると川風は冷たく、肌で秋の深まりを実感します。今回は秋川中流域。区域としては山田大橋から十里木ぐらまでの川の魅力などを紹介します。

この区間の流域では、川の浸食で削られた岩の壁面や上流から運搬された大きな岩といったダイナミックな川の造形を目にすることができます。川岸が崖になっている箇所が多いため、なかなか川沿いをじっくり歩いて散策できる場所がありませんが、秋川橋から沢戸橋までの区間は所々、岸から川面を眺めながら散策することができます。川の水が透きとおっていることが多いので、いろいろな魚を目にすることができ、見慣れない魚影を見つけてしまうとついつい目で追ってしまいます。例えば以前見かけたものでは、全長40センチぐらいで先端が少し長い見慣れない魚影が優雅に泳いでいました。明らかにずんぐりしたコイの姿とは異なったので、双眼鏡で姿を追いじっくり観察してみると、それはニゴイという魚でした。ニゴイは雑食性で、小魚から水生昆虫、藻類まで多くの生きものを捕食します。このニゴイを目撃したことで、水生生物が豊かな秋川の指標をまた一つ見たような気がしました。

これから秋が深まってくると川沿いの木々が紅葉し、水面に映る木の葉の赤や黄色の色彩が何とも言いようもない景色を醸し出します。秋晴れの澄んだ空と彩り豊かな川の景色を散策しながら楽しんでみてはいかがでしょうか。

(佐々木)

